



## 歌川国貞《星の霜 当世風俗(蚊帳美人)》

文政2年(1819)頃 大判錦絵(北海道立近代美術館蔵)

寝苦しい夏の夜、蚊を防ぐための蚊帳は必需品。寝間着姿の女性は寝蓐座の上にひざまずき、蠟紙(パラフィン紙)に火をつけ、紛れ込んだ1匹の蚊を退治しようとしています。1匹の蚊に視線を集中させている女性の表情やしぐさは、情緒豊かに描写され生活感を感じさせます。江戸の町に暮らす女性の何げない日常の1場面をとらえたこの作品は、「星の霜」シリーズの中の1点。幾星霜(長い年月)を経て形づくられた当時の風俗の一端をうかがうことができます。膝元の団扇には、「助六曲輪菊すけろくまがわらぎく」を演じた3代目尾上菊五郎が描かれています。この演目が上演された年から、本作の作画時期を推定することができます。

高度な木版技法による精緻な描写には驚かされません。とりわけ、細かな網の目の蚊帳は、縦の線と横の線を彫った別の版をそれぞれ摺り重ねて表現されたもので、その質感とともに明暗や立体感もみごとに描きだされています。

歌川国貞は美人画と役者絵を得意とし、江戸後期から末期にかけて約半世紀にわたり活躍し、当時最大勢力を誇っていた歌川派をリードしました。長い作画期には2万点を超える作品を描いたとも伝えられていますが、文化から文政期(1804-30)にかけての作品が最も高く評価されており、本作もこの時期に制作された優品です。

(光岡幸治 北海道立近代美術館 上席専門員)

# 蠣崎波響と松前の至宝

10月13日(日)～12月8日(日)

北海道立函館美術館 学芸員 田村 允英

北海道最南端に位置する松前町は、江戸時代、広大な蝦夷地を擁した松前藩の中心地として栄えた日本最北の城下町です。北前船を介して本州から美術品を含む様々な文物が移入された松前町近郊では、道内でも早くから美術文化が醸成されてきました。同地の美術史を語る上で最も注目すべき画家として、本年、生誕260年を迎える蠣崎波響(1764～1826)が挙げられます。波響は松前藩家老もつとめた文人画家で、宋紫石や円山応挙など同時代の著名な画家に師事する一方、菅茶山をはじめとする漢詩人たちとの交友を深め、繊細優美な独自の画境を極めました。

## 文人画家・蠣崎波響の足跡

蠣崎波響は、明和元(1764)年、松前家第12世資廣の五男として福山館で生まれました。2歳で藩の家老・蠣崎家の養子となります。勉学のため、藩随一の硯学といわれた叔父・松前廣長により江戸に派遣され、和学・書・絵画を学びました。長崎に渡来した清朝由来の南蘋派の写実画法を学んだ建部凌岱や宋紫石の門下で才能を発揮。20歳で松前に帰ります。



蠣崎波響《柴垣群雀図》  
寛政8(1796)年、  
松前町教育委員会蔵



蠣崎波響《名鷹図》  
文化12(1815)年、北海道立函館美術館蔵

波響の代表作の一つに、寛政2(1790)年に完成した《夷酋列像》があります。アイヌの指導者ら12名の相貌や華麗な衣装を精巧に描き評判となった同



蠣崎波響《蓮蛙図》寛政年間、松前町教育委員会蔵

作を携え、翌年上洛。多くの文人墨客と交遊します。その間、円山応挙と知遇を得て、平明洒脱な円山派の画技に精通し、のちに「松前応挙」と称されました。  
《柴垣群雀図》は、波響壮年期の秀作。同作は、京都から松前に招いた大原呑響が帰省する寛政8(1796)年6月に描かれ、上部に呑響の賛が見られます。柴垣の込み入った枝と可憐な豆

花、生き生きとした親子の雀が巧みな筆致で描き分けられています。このほか、喜多川歌麿『画本虫撰』から構図をとった《蓮蛙図》のような作品も残しており、同時代の様々な書物等から制作の業を果敢に吸収し、自身の画風を確立した軌跡をご覧ください。

### 梁川時代の苦境と制作

文化4（1807）年、江戸幕府は松前藩に陸奥梁川（現・福島県伊達市）へ



小玉貞良《松前屏風》宝暦年間(1751～64)、松前町教育委員会蔵



蠣崎波響《大黒天図》文政7(1824)年、個人蔵

にも充て、涙ぐましい努力を続けました。当時の作品の中でも、特に注目されるのが、松前藩の特産品である鷹・蝦夷錦を組み合わせて描いた《名鷹図》。鋭い眼光、緻密な羽毛、勇壮な姿態など、「名鷹」と呼ぶにふさわしい風格を的確に描写した名品です。



《崇廣肖像写真》、松前町教育委員会蔵

### 松前復領、そして晩年へ

波響の奔走もあり、文政4（1821）年に松前藩は北海道への復帰を遂げました。60歳を迎えた年、波響は子の波鷺に家督を譲り、以降は画業に専念。その技量は衰え

ることなく、大黒天の容貌や、画面奥のねずみたちまで微細に描き込んだ《大黒天図》などの吉祥図の優品を残しています。最晩年まで絵筆を手放さなかった波響は、息子の波鷺、高橋波藍、熊坂適山といった弟子を多く育てました。文人として、家老として、松前藩の安泰を願った波響は、松前の豊かな文化の礎を築いた人物といえるでしょう。

### 波響だけじゃない、松前文化の魅力

松前町が誇る美術文化の精華は波響だけではありません。本展では、小玉貞良《松前屏風》をはじめとする松前藩ゆかりの日本画家の優品、松前藩が作成したもの由来とする近世の北方地図、老中まで出世した開明的な藩主・松前崇廣も研究した幕末・明治期の古写真、松前城下で打たれた刀剣、平成30（2018）年に国指定重要無形民俗文化財に指定された松前神楽関連資料なども紹介。この地域が育んだ比類なき名品により、松前文化の粋をお楽しみいただきます。



《刀 銘 源直義》慶応元(1865)年、松前町教育委員会蔵

## マイ・ホーム(仮)

2025年1月18日(土)～3月9日(日)

札幌芸術の森美術館 学芸員 橋本 柚香

「ホーム」という言葉を耳にしたとき、どのようなところ・もの・ことを思い浮かべるでしょうか。ホーム(home)は、住宅、家庭、故郷、発祥地、本拠地などの意味を持ち、本来あるべき場所、頼りとなるものというニュアンスを含む言葉です。

昨今ではパンデミック、都市開発、移民問題、民族紛争など、ホームのあり方を揺るがす出来事が相次いでいます。物質的もしくは精神的な「よすが」であるはずのホームは、思いがけず頼りなく、私たちは「仮に」そこに身を置いていくだけなのかもしれません。本展では、暮らし、コミュニティ、ルーツなど、ホームを形づくる様々な要素をテーマとした作品を紹介します。

本展には、北海道ゆかりの作家や北海道を制作の場とする作家7名が出品します(葛西由香、小林知世、武田浩志、田中マリナ、長坂有希、南阿沙美、米坂ヒデノリ)。武田浩志が継続的に制作している「portraitシリーズ」には、色鮮やかに飾られ、聖性を帯びた人物の



武田浩志《portrait 290》2024年  
木製パネル、アクリル絵具、エポキシ樹脂、印刷物、ラメ、4K single-channel video

輪郭が描かれます。しかし、作家は特定の人物を描いているのではなく、関心のある素材を人型(ひとがた)に託しているにすぎないといえます。人型は映像として複製され、画面の中で姿かたちを変えていきます。神などの「像」にすぎりたいという感情を、軽やかにすり抜ける作品です。

日本画家の葛西由香は、身近な日用品をモチーフに選んでいます。《発芽》と題された作品に描かれるのは、つま先に穴が開いてしまった靴下。哀れであり、くすりと笑いを誘うような光景です。生活の積み重ねである人生には、追い風の時も向かい風の時もあります。どこか哀愁漂う日用品を見つめる眼差しは、山あり谷ありの日々をたおやかに生きる人間への、温かな眼差しに通じています。

本展開幕日の1月18日(土)、翌19日(日)には、オーピング・アーティスト・トークを開催予定です。「ホーム」というテーマについて何を考え、どのように作品として表現したのか、各作家が語ります。本展を通して、頼りなくも愛しいマイ・ホームを思い返してみてください。

※掲載画像は出品作品と異なる場合があります。



葛西由香《発芽》2021年  
紙本彩色、水干絵具、飾り縁

# MUSEUM CALENDAR

## 2024.10～2025.3

美術館のおもな展覧会ご案内

  は特別展示室

  は常設展示室

濃色はアートギャラリー北海道

	10	11	12	1	2	3
近代美術館	9/21(土)～10/27(日) 皇居三の丸尚蔵館展 皇室の至宝 北海道ゆかりの名品		12/5(木)～ 12/15(日) 北海道書道連盟 創立70周年 記念展		1/5(日)～3/16(日) 星の瞬間 アーティストとミュージアムが読み直す、Hokkaido	
	10/12(土)～12/8(日) ウィズ・キッズ'24 みる・ふれる・つたえる さいぎょうのざいりょう/ 温かいガラスへ 岩田藤七の軌跡/ この1点を見てほしい。				1/5(日)～3/16(日) 変貌する20世紀 ヨーロッパ・ガラス プロダクトへ、アートへ	
三岸好太郎美術館	10/5(土)～12/3(火) わがこころの街 一好太郎と画家たちの札幌			12/14(土)～2/24(月・振休) 所蔵品展「匂ふやうな灰色」 一好太郎・乳白色の世界へ I期		3/1(土)～4/18(金) 所蔵品展「匂ふやうな灰色」 一好太郎・乳白色の世界へ II期
				12/14(土)～2/24(月・振休) #みまのめ(VOL.10)		
旭川美術館	9/14(土)～11/17(日) 生誕90年記念 藤戸竹喜の世界展		12/3(火)～12/25(水) みんなの推し☆コレクション ～オススメの所蔵品を 教えてください～		1/11(土)～3/16(日) 動く?飛び出す!不思議な絵画 オブ・アート展	
	9/14(土)～11/17(日) 旭美の写実		12/3(火)～3/16(日) ※12/26(木)～1/10(金)は休館		追悼 彫刻家・板津邦夫	
函館美術館	10/1(火)～ 10/6(日) 赤光外美術館 百年生誕記念展 (貸館)	10/13(日)～12/8(日) 蠣崎波響 生誕260年 蠣崎波響と松前の至宝			12/21(土)～4/6(日) 文字の芸術をめぐる旅 文字ってアートなの?	
		10/1(火)～12/8(日) 少女たちの夢 味戸ケイコ展			12/21(土)～4/6(日) 港町函館 今・昔	
		10/1(火)～12/8(日) 金子鷗亭Ⅱ期 俳句の書			12/21(土)～4/6(日) 金子鷗亭Ⅲ期 海を書く	
帯広美術館		11/1(金)～12/22(日) 帯広美術館コレクション選Ⅰ			1/11(土)～3/16(日) 帯広美術館コレクション選Ⅲ	
		11/1(金)～12/22(日) 帯広美術館コレクション選Ⅱ			1/11(土)～3/16(日) 帯広美術館コレクション選Ⅳ	
釧路芸術館		10/12(土)～12/8(日) 自然へのまなざし 天と地と			12/21(土)～3/9(日) ももちゃん芸術祭2024 アートを楽しむヒントをみつけよう!	
		10/12(土)～12/8(日) series Re-birth 風化から再生2024 [朽ち行くものから]—下沢敏也展			12/21(土)～3/9(日) 新収蔵品展 森山大道 「北海道」を中心に	
札幌芸術の森美術館		10/12(土)～1/5(日) フィロス・コレクション ロートレック展 時をつかむ線			1/18(土)～3/9(日) 札幌美術展 マイ・ホーム(仮)	
	4/29(月・祝)～11/3(日・祝) 札幌芸術の森野外美術館	10/12(土)～1/5(日) 砂澤ビッキ アーカイブ 経過報告展			1/18(土)～3/9(日) 札幌芸術の森美術館コレクション選 本郷新の言説(仮称)	
本郷新記念美術館		10/5(土)～1/26(日) 第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念 藤原千也展				3/8(土)～5/25(日) コレクション展 本郷新 彫刻の設計図 リターンズ(仮称)
		6/1(土)～2025/5/25(日) コレクション展 2024-2025				

○開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

※芸術の森 9:45～17:00 (6月から8月は17:30まで) ※札幌彫刻美術館 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

○休館日 ●毎週月曜日(月曜日が祝日又は振替休日のときは開館、翌火曜日休館) ●年末年始(12/29～1/3) ●展示替え期間(展覧会と展覧会の間)

※芸術の森 5月～10月無休(展示替期間は休館)

※施設により臨時休館、臨時開館の場合もありますので、各施設のホームページでご確認いただくか施設にご確認願います。

※会員登録の利用について 貸館の観覧は会員登録が利用できない場合がありますので、ご了承願います。

※【アートギャラリー北海道】は、道内の美術館がネットワークでつながり、双方でアートを紹介・発信することにより、北海道全体がアートの舞台となることを目指す取組みです。

近代美術館

皇居三の丸尚蔵館展

皇室の至宝 北海道ゆかりの名品

9月21日(土)～10月27日(日)

皇居三の丸尚蔵館は、代々皇室に受け継がれてきた美術工芸品を保存・調査研究・展示しています。収蔵品は日本の作品を中心に、海外からもたらされた作品も含まれており、その時代や分野も幅広いものです。

本展は、皇室ゆかりの美術作品を北海道でまとめて紹介する、初の本格的な展覧会となります。北海道と京都・江戸とのつながりを示す近世の名品や、北海道行幸啓にまつわる作品、北海道ゆかりの作家の作品など、皇室と北海道をつなぐ優品を一堂に展覧します。近世では蠣崎波響をはじめ円山応挙、伊藤若冲、酒井抱一など、近代では横山大観ら帝室技芸員や、北海道ゆかりの山口蓬春、片岡球子などの作品をお楽しみください。



国宝 伊藤若冲《動植綵絵 紫陽花双鶏圖》  
江戸時代(18世紀) 皇居三の丸尚蔵館収蔵

mima三岸好太郎美術館

特別展

わがこころの街

—好太郎と画家たちの札幌

10月5日(土)～12月3日(火)

札幌は、明治期、開拓使が都市計画を進めた近代都市。レンガ造や軟石造の洋風建築。アカシアやエルムの濃い樹陰。戦前の札幌は、そのエキゾチックなたたずまいにより多くの旅人をひきつけ、ここに生まれた少年・三岸好太郎のこころに、はるかな異郷へのあこがれをばくくみました。画家・三岸好太郎は、1921(大正10)年に上京し、亡くなるまで東京を拠点に活動しましたが、毎年のように札幌に帰郷。生

地・札幌は、好太郎を物心両面で支えました。本展は、好太郎が札幌で描いた風景画を中心に、同時代の画家が描いた古き良き時代の札幌風景を紹介し、大正から昭和にかけての、ノスタルジックな札幌のイメージをご堪能ください。



三岸好太郎《大通教会》1928年頃 当館蔵

旭川美術館

追悼 彫刻家・板津邦夫

12月3日(火)～2025年3月16日(日)

長く旭川を拠点に、北海道の抽象彫刻を牽引した板津邦夫(1931～2023)は、人間や自然など幅広いテーマをもととした、ユーモラスな造形作品で知られます。札幌に生まれた板津は、東京芸術大学で具象彫刻を学び、札幌に帰郷した後に独学で石こうやプラスチックによる抽象に取り組みました。その5年後、北海道教育大学旭川校での勤務を機に、木を素材とするようになります。北海道美術協会展(道展)や自由美術協会展などの公募展で作品を発表し、道内外でも第一線の作家として活躍

しました。大学を退官した後は「何ものにもとらわれずに、自由な造形の世界に進みたい」としてさらなる表現を探索し続けました。本展では当館が所蔵する初期から2000年代の作品を通して作家の創作の軌跡を振り返ります。



板津邦夫《植物(芽)》  
1978年 北海道立旭川美術館蔵

函館美術館

文字の芸術をめぐる旅

文字ってアートなの？

12月21日(土)～2025年4月6日(日)

2000点を超える函館美術館のコレクションの核となる「文字と記号に関する現代美術」「書と東洋美術」の作品を中心に紹介する展覧会です。

三島喜美代《NEWS PAPER F-87》は、今年6月に逝去した作家の代表的な作品群の一つ。割れやすい素材の陶器にシルクスクリーンを使って文字を転写し、新聞という一過性の情報メディアの不安定さを表現しています。その一方で、本作品は縦横1m近い大きさがあり、立体としての存在感があります。この

ほかにも、ダイナミックな筆づかいが楽しめる書の作品なども展示します。本展を通して、文字や言葉を使った作品が、造形芸術としての見た目だけでなく、時に新しい考え方や視点を提示することにも注目して、アートとしての魅力に迫ります。



三島喜美代《NEWS PAPER F-87》  
1987(昭和62)年 北海道立函館美術館蔵

帯広美術館

帯広美術館コレクション選Ⅰ

「森と林のあわいに」(特別展)

11月1日(金)～12月22日(日)

帯広美術館が開館して33年。これまで様々な展覧会を開催してきた当館ですが、施設の不具合が見られるようになってきました。そこで本年は7月から10月までの4ヶ月間を臨時休館し、大規模な施設改修を行っております。休館明けまであと2ヶ月！開館が待ち遠しい、今この頃です。

さて休館明け11月からの帯広美術館コレクション選Ⅰでは、40年に渡り美術館の支援を続けてきた帯広美術館振興会の

軌跡をたどりながら、その寄贈作品を軸に、バルビゾン派から道東の美術まで、緑豊かな自然を舞台に描かれた作品を紹介。地域の熱意と願いで育まれたコレクションの成り立ちと、作品に込められた美の源泉をたどります。



レオンス・シャブリ 《羊の群れを連れ帰る羊飼い》 1872年

釧路芸術館

自然へのまなざし 天と地と

10月12日(土)～12月8日(日)

北海道立釧路芸術館は平成10年の開館以来25年余りの歳月を経て、現在まで328作品900点余りを収集しました。当館の作品収集方針の柱の一つである「自然と芸術」のもと、自然を題材に様々な手法と視点により表現された作品がコレクションの一角を形成しております。

本展では当館の所蔵作品を中心に、美術作品に見られる人間と自然の関わりのかたちを「大地」と「空」の2つのテーマにより展開します。

展示では身近な光景を題材にした作品を出発点に、順を追って抽象的な造形や、

象徴性の高い表現をご覧ください。「大地」の章では主に人間と大地の関わりのある方をテーマにした作品を、「空」の章では古来より人間が天空や天上の世界へ抱いた象徴的なイメージに基づく作品で展示を構成し、自然に対する多様な視点や作品に込められた概念について、ご紹介いたします。



徳丸滋 《枯れむぐら》 1988年 北海道立釧路芸術館蔵

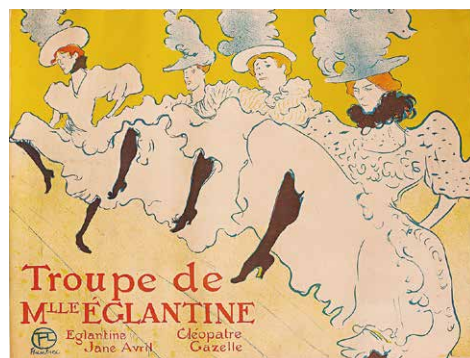
札幌芸術の森美術館

フィロス・コレクション

ロートレック展 時をつかむ線

10月12日(土)～2025年1月5日(日)

19世紀末パリで活躍した画家アンリ・ド・トゥールーズ・ロートレックは、歓楽街モンマルトルにアトリエを構え、そこに生きる歌手や芸人たちを描きました。本展は、ロートレックのグラフィック作品の個人コレクションとしては世界最大級のフィロス・コレクションで構成されます。素描作品を核に、ポスター、版画、さらにロートレックの手紙や写真など作家の内面に迫る作品と資料約300点を展観します。「1点もの」の



《エグランティエヌ嬢一座》 1896年 リトグラフ  
La Troupe de Mademoiselle Églantine, 1896, Lithograph  
Courtesy "The Firos Collection"

素描は日本初公開となるほか、ポスターの下絵などロートレックの制作過程を伝える資料もご覧いただけます。

本郷新記念札幌彫刻美術館

第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞記念

藤原千也展

10月5日(土)～2025年1月26日(日)

第4回本郷新記念札幌彫刻賞を受賞した木彫作家・藤原千也(ふじわらかずや、1978年札幌生まれ、中札内村在住)の作品展。

木のもつ魂の感受を求めて巨木の内部に潜り込み、ひたすら斧や鑿で削り制作したスケールの大きい作品や、鑑賞者が木の内部に入り込めるような作品、流木を用いたインスタレーションなどの最新作を展示します。

現在、札幌芸術の森美術館の中庭にも《太陽のふね》(高さ3m80cm、幅3m40cm、奥



藤原千也 《太陽のふね》 2024年  
札幌芸術の森美術館中庭設置  
(第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品、2027年4月頃まで展示)

行19m)が設置されておりますので、ぜひ本展と併せてご覧ください。

# A・RE・KO・RE information

## 美術講座2024《日本・西洋の美術シリーズ》開催

本年度29回目となる美術講座(全10回)が5月9日から8月29日まで、84名の受講申し込みを受け開催されました。

コロナ禍での中断を余儀なくされたため、受講者が予定人数を下回ったのは残念でしたが、受講者の皆さんは熱心にメモを取りながら聴講されていました。



ルネサンス期の華やかな芸術、国宝「鳥獣戯画」、近代日本画家・上村松園、ほか多岐にわたるテーマでの講義を体系的に学べる充実した内容となりました。

今回も終了時にはアンケートを実施し、次回の美術講座開催に向け参考とされます。

来年度の美術講座を是非とも楽しみに。

## 第78回全道展開催

第78回全道展(全道美術協会、北海道新聞社主催、北海道美術館協力会他後援)において、全道美術協会賞および北海道美術館協力会賞に、静寂な海の中での生命(鯨)と破壊(魚雷)を重ね合わせた大作の絵画「静寂な眠りの中で」が選出され、昨年度に続き大野海玖さん(23歳、函館市)が2年連続ダブル受賞しました。札幌市民ギャラリーにて6月12日~23日の会期で受賞作を含む総作品347点が展示されました。



## 第39回国内美術研修東京・箱根の美術めぐり4日間 2024年5月28~31日

今回の旅行で初めて東京国立博物館の法隆寺宝物館に行き、国宝の金銅製の幡に飛鳥時代の鑄造技術の素晴らしさや、一体ずつ表情も髪型も衣服も違う念持仏に仏教伝来の多様性を感じました。そこで見た仏具の数々が『法然展』の鎌倉時代の絵巻にも描かれているのを見て、それらが伝来からずっと形を変えずに日本の文化として根付いていることに感動しました。

この旅で、なかなか日頃会えない遠方の会員の方と交流ができ、またボランティアの方々とも旅を通して親しくなれたのは素晴らしい経験でした。自分としては反省点もありますが、また是非よい企画をして参加したいと思います。



## マーレイ カフェMarley オープン

7月9日(火)、近代美術館2階に新たにカフェがオープンしました。

自家焙煎珈琲とチョコレートのお店「Marley」です。

コーヒー、ジュースなどのドリンク類やチョコレート、トーストなどのフードメニューも用意しています。アルテピア会員にはドリンクが割引となりますので、会員証をご持参の上、ご来店ください。



## 近美 Museum Shop



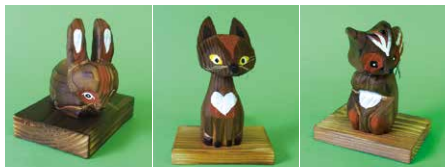
伊藤若冲 樹花鳥獣図屏風  
クリアファイル 330円



伊藤若冲 色紙  
左: 樹花鳥獣図屏風両面 1650円  
右: 雪中雄鶏図色紙 1100円  
(27cm×24cm)



伊藤若冲 樹花鳥獣図屏風  
左: 扇子(左隻)女性用  
右: 扇子(右隻)男性用  
各3850円



砂澤ピッキデザイン 北の動物達  
ウサギ、キツネ、リス 各5280円

## ★北海道立近代美術館ミュージアムショップ

TEL 直通: 011-621-8027 E-mail: shop@artepia.or.jp  
https://artepia.base.shop





## 近美とわたし—アートを楽しむ—

小島 道央

1977年の近美の開館以来、私はこれまでに日本画・西洋画・浮世絵・ガラス工芸などの特別展やイベント等でアートを楽しんでおります。また、美術講座・講演会・ギャラリーツアーやミュージアムトークなどで作家や作品を通じて、鑑賞のノウハウを学ばせてもらいました。最近、特に作品とゆっくり対話をしながら、鑑賞することを心がけております。そして、「アートを楽しむ」姿勢で各作品を鑑賞しております。近美との付き合いは、40数年になりますが、近美では鑑賞の基本を学ばせて

もらいました。

これからは、広報部の一員として、微力ながら近美の魅力を発信して、来場者に、アートを楽しんで、作品の醍醐味を少しでも味わって頂きたいと思っております。

そして近美は、誰もがアートに触れられる憩いと学びの場として、道民はもとより、全国に親しまれるミュージアムとして、今後も進展して行って欲しいと思います。

## 私の美術鑑賞遍歴

竹下 稔晃

私が初めて行った美術展は浪人時代の昭和60年にさっぽろ東急百貨店で催されたユトリロ展である。姉に連れられて行ったのだが、あまり当時の記憶が無い。絵を描いたりするのは好きだったが、絵を見て楽しむという趣味がわからなかったのだろうと思う。

それから美術館に行ったりする事はしばらく無かったのであるが、社会人になっていた平成5年にルブル美

術館展が開催される事を知り、何を思ったか、これは観ておいたほうが良いのではないかと考えてしまった。そうして会場である横浜美術館に行ったのであるが、今考えても作品の質や量が非常なボリュームで、西洋の芸術水準に圧倒されてしまった。これはある程度わかっておいた方が良くかもしれないと感じた事が、その後美術鑑賞が大きな趣味となっていききっかけであった。

ご入会ありがとうございました

## 新会員紹介

2024年3月～7月・敬称略

### \*個人会員

#### 3月

札幌市 杉田基子  
 // 齊藤陵子  
 // 小原寿一  
 // 山本由記子  
 // 岩淵信子  
 // 鈴木宏美  
 // 佐藤良子  
 // 丸勝美  
 // 中西美喜  
 // 諸岡千秋  
 // 高柳万美子  
 // 寺下良行  
 // 広田まゆみ

札幌市 臼井由紀子  
 // 石黒芳子  
 // 竹下稔晃  
 // 澤谷雄幸  
 // 山本栄  
 // 寺島輪音  
 // 林京子  
 // 上田美幸  
 石狩市 國安美千子  
 恵庭市 久光原

#### 5月

札幌市 名古屋恵美  
 // 伊藤景子  
 // 加瀬志帆  
 // 山本久子  
 // 小松博子  
 // 小松実  
 // 種田久幸  
 // 西尾知子  
 // 谷口裕美  
 // 中澤浩  
 // 中澤まみ  
 // 山下真由美  
 // 加瀬みゆき

#### 4月

札幌市 山下和伸  
 // 中 美鯉  
 // 斎木りつ子  
 // 松浦淳  
 // 飯村美紀子  
 // 尾形輝美  
 // 徳田瑞江  
 // 飛谷澄江  
 // 松村利栄子

札幌市 後藤典子  
 // 坂東功一  
 // 柏原純子  
 // 笹畑秀隆  
 // 白崎裕康  
 // 川口晶  
 // 所淳子  
 美深町 池上太郎

#### 6月

札幌市 下畑いのり  
 // 杉林仁止  
 // 石原真知子  
 // 河辺留美子  
 // 秋山雅行  
 // 山本文恵  
 // 三浦淳  
 // 三浦朝実  
 千歳市 小山真司

#### 7月

札幌市 笹波真理子  
 // 佐藤潤子  
 // 中谷壽志  
 // 中谷祐嘉

札幌市 清水摩貴子  
 // 佐藤多恵子  
 // 富塚とも子  
 // 竹澤桂子  
 // 安岡司  
 // 安岡良美  
 // 高田力  
 // 田中真理  
 // 荒木久美子  
 // 河本茂  
 // 都築達雄  
 // 月嶋孝  
 // 水木久美子  
 // 高橋アンナ  
 // 泉春美  
 旭川市 中嶋賢介  
 北広島市 小山田ゆき



(アルテピアHP)

## 令和6年度定時総会の報告

去る6月12日（水）、近代美術館講堂において定時総会が開催されました。

冒頭、吉野会長から「日頃より当美術館協会の諸活動についてご支援・ご協力を賜っていることに心から厚く感謝申し上げます。ご承知のとおり、最近の美術館協力を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの感染拡大や昨年度は近代美術館の改修工事があるなど、当協会の活動に色々と制約の多い時期でありました。その結果、本日、ご審議をいただく令和5年度の事業報告・収支決算の内容も大変厳しい内容となりました。今年度は、久しぶりにそのような問題もなく、当協会の事業活動を推進していけるものと考えていますので、皆様の格別なご支援とご助力をお願いいたします。」と挨拶がありました。



### 議案審議の概要

#### ○議案第1号 令和5年度事業報告及び収支決算報告について

原案どおり承認可決しました。

事業実施状況については、近代美術館の長期閉館の影響によりボランティア活動員の活動日数や売店商品の販売数が減少し、また、財務会計においても、主な財源である事業収入の「売店売上収入」が落ち込み、大幅な収入減となりました。

収支決算については、表1のとおりです。

#### ○議案第2号 理事・監事の任期満了に伴う選任について

今年度は、理事・監事の改選年であり、吉野次郎会長を含む5名の理事及び1名の監事が退任することから理事・監事の選任を行い、原案どおり承認可決しました。

なお、定時総会終了後に開催された第2回理事会において、新しい会長、副会長及び専務理事が選任されました。

新たな役員については、下表のとおりです。

#### ○報告第1号 令和6年度事業計画及び収支予算について

事業計画及び収支予算について報告がありました。

事業計画については、基本的に従来から実施している事業をベースに策定されましたが、収支予算については、一般会計において特定資産の取崩を行っているところであり、これまで以上に経費の節減に努めていくこととしています。

収支予算については、表2のとおりです。

#### 新体制（令和6年6月12日現在）

理事（五十音順）※新任者

会 長	杉本 互	理 事	※秋山 雅行	小砂 憲一	※長谷川雅英	監 事	伊藤 文明
副 会 長	吉田 洋一		池上喜重子	※佐藤 潤子	安木 尚博		※大橋 則之
	和田 壬三		小沢 正晴	※杉岡 正三	山本亜紀子		
	石井 孝久		加藤 康夫	坪内 弘樹			
専務理事	※安部 和彦		木村寿賀子	戸井 敏夫			

平成19年からの長きにわたり会長を務めてこられた吉野次郎理事が退任され、後任の会長には杉本互理事（副会長）が、副会長の後任には石井孝久理事が選任されました。

#### 訃報

美術館協会理事

石黒 勇治 様

（令和6年4月ご逝去）

平成18年より理事に就任され、北海道の美術文化の振興並びに当協会の発展に多大なる貢献をされました。

ここに、ご生前のご尽力に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

## 令和6年度 つどい

「つどい」は美術関係者、美術館、協会会員およびボランティアの親睦を目的として総会後に行われている催しです。コロナ禍で中断していましたが今年度から再開されることになり、6月12日夕刻より近代美術館1階ロビーに関係者68人が集まり、軽食に舌鼓を打ちながら交流を深めました。

今年度は「素敵なジャズギター&ピアノの夕べ〜心にしみるひと時を」と題してギタリストの笹島明夫さん、ピアニストの安斉亨さんをお迎えし、ジャズの本場ニューヨークで磨かれたセッションを楽しみました。ロビーは心地よいメロディーで満たされ、参加者は生演奏ならではのジャズのスイングを存分に堪能していました。



(表1)

## 令和5年度収支決算総括表（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）

(単位:円)

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	合 計	一般会計	売店会計	科 目	合 計	一般会計	売店会計
基本財産運用収入	102	102	0	事業費支出	22,420,359	5,931,042	16,489,317
特別収入	34	34	0	管理費支出	5,488,040	5,488,040	0
会費収入	9,234,000	9,234,000	0				
事業収入	15,565,421	568,000	14,997,421				
寄付金収入	0	0	0	他会計への繰入金支出	1,000,000	0	1,000,000
雑収入	316,781	30,015	286,766				
特定資産取崩収入	0	0	0	特定資産取得支出	34	34	0
他会計からの繰入金収入	1,000,000	1,000,000	0				
当期収入合計	26,116,338	10,832,151	15,284,187	当期支出合計	28,908,433	11,419,116	17,489,317
前期繰越収支差額	4,039,531	563,208	3,476,323	次期繰越収支差額	1,247,436	-23,757	1,271,193
収入合計(B)	30,155,869	11,395,359	18,760,510	支出合計(B)	30,155,869	11,395,359	18,760,510
予算額(A)	34,956,603	11,254,187	23,702,416	予算額(A)	34,956,603	11,254,187	23,702,416
差異(A-B)	4,800,734	-141,172	4,941,906	差異(A-B)	4,800,734	-141,172	4,941,906

(表2)

## 令和6年度収支予算総括表（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）

(単位:円)

区 分	収 入 の 部				支 出 の 部					
	科 目	予算額	前年予算額	差 異	備 考	科 目	予算額	前年予算額	差 異	備 考
一 般 会 計	基本財産運用収入	200	500	-300	定期預金利息	事業費支出	7,620,712	6,893,020	727,692	
	特別収入	30	30	0		美術活動協力 事業費支出	6,972,112	6,445,420	526,692	各部活動経費、会報、 会員観覧料等
	会費収入	10,740,000	9,777,000	963,000	個人、法人会員年会費	美術講座等開催 事業費支出	533,000	336,000	197,000	美術講座等経費
	事業収入	2,090,000	1,260,000	830,000	美術講座受講料					
	寄付金収入	0	0	0		美術館研修視察 事業費支出	75,600	75,600	0	
	雑収入	30,030	30,100	-70	普通預金利息・地域 活動助成金	美術優秀創作活動 等顕彰事業費支出	40,000	36,000	4,000	協会賞贈呈経費
	特定資産取崩収入	1,000,000	0	1,000,000						
	他会計からの繰入金収入	0	0	0		管理費支出	6,135,949	5,878,411	257,538	運営管理費
	当期収入合計	13,860,260	11,067,630	2,792,630		特定資産取得支出	30	30	0	
	前期繰越収支差額	-332,923	186,557	-519,480		当期支出合計	13,756,691	12,771,461	985,230	
収入合計	13,527,337	11,254,187	2,273,150		当期収支差額	103,569	-1,703,831	1,807,400		
					次期繰越収支差額	-229,354	-1,517,274	1,287,920		
					支出合計	13,527,337	11,254,187	2,273,150		
売 店 会 計	事業収入	31,103,030	18,356,000	12,747,030	商品売上収入	事業費支出	31,723,604	21,208,318	10,515,286	仕入費、賃金、施設 賃借料等
	雑収入	120,036	90,050	29,986	自動販売機手数料等	他会計への繰入金支出	0	0	0	
	当期収入合計	31,223,066	18,446,050	12,777,016		特定資産取得支出	0	0	0	
	前期繰越収支差額	1,163,508	5,256,366	-4,092,858		当期支出合計	31,723,604	21,208,318	10,515,286	
	収入合計	32,386,574	23,702,416	8,684,158		当期収支差額	-500,538	-2,762,268	2,261,730	
					次期繰越収支差額	662,970	2,494,098	-1,831,128		
総 計	45,913,911	34,956,603	10,957,308		総 計	45,913,911	34,956,603	10,957,308		

## ボランティア活動員入部式 4月4日(木)

令和6年度ボランティア入部式が4月4日(木)近美講堂において行われました。

今年度は24名が協力会より委嘱状を受け取り、各部での活動がスタートしました。

研修生のみなさんは、昨年8月から始まった共通研修、各部専門研修に8割以上の出席を果たし、ボランティア活動員になりました。

新入部員のみなさんのご活躍を期待しています。



## アート・クラブ2024 6月8日(土)

2024年6月8日(土)、近美2階ロビーにて、アート・クラブ2024が開催されました。このアート・クラブは、特別活動部の主催で今年に入って、2度目です。今回のテーマは、「Enjoy!アイス棒あーと〜重ねて組み上げて作ってみよう〜」で、アイス棒でいろいろな作品を作るというものです。親子連れの3・4組が訪れて、特活部のベテランの人が作り方を教えていました。子供たちは、作り方を教えてもらいながら、熱心に取り組んでいました。出来上がった作品は、飛行機・自動車・スマホ・スタンドなどですが、飛行機や自動車が多かったです。アート・クラブは、子供たちの豊かな感性を磨いて、アートに関心を持ってもらう良い機会でした。



## Artepia News

## ボランティア活動員説明会・ ガイダンス 8月1日(木)~2日(金)

ボランティア活動員の応募者への説明会・ガイダンスが8月1日(木)・2日(金)に近美映像室で行われ15名が参加しました。まず、協力会の事務局長より現在協力会の185名のボランティア活動員が美術館で活躍しているという話がありました。説明会では7部長が工夫を凝らしながら活動内容をアピール、その後希望する部に分かれたガイダンスでは、車座になり現役員も加わりなごやかな雰囲気の中参加者の質問に丁寧に答えていました。美術に興味や関心を持つ我々の仲間として、是非来年4月にボランティア活動員デビューを期待します。



## ボランティア活動のご紹介 第4回 資料部

資料部の活動は、①美術関連の新聞記事の整理、②美術館に国内外から届く各美術館博物館の図録、展覧会案内、研究資料などを分類、作家別・美術館別に配架③逐次刊行物の受入れ、回覧、配架など大変細かい作業です。

整理するだけでなく、検索するためのカードを作成し、美術館の研究室に保管しています。

いずれも情報を正確に収集・整理し、学芸員が有効に活用できるような環境を整えることを目指しています。

作業の中で自然と美術の知識も身につきますし、仲間たちとの美術談義も楽しく日々活動しています。

また机上だけではなく、年に1回部内研修として、道内の美術館を



を巡り実際に芸術に触れる機会もあります。

直接お客様に接することはほとんどありませんが、美術館、特に学芸員の仕事を陰で支える縁の下の力持ちの役割を担っていると自負しています。

## 編集だより

■はじめまして!この4月より、広報部に配属となりました。会員の皆さんに少しでも楽しんで頂ける企画・内容にしていきたいと思えます。目標は、ミュージアムを訪れる人に作品を楽しんでもらい、「もう1度行きたい」と思わせることです。その一助となれるよう努めていきたいです。(M・K)

■まだボランティアを始めたばかりで大した力にはなっていませんが、早く仕事を覚えて頑張る所存です。コロナ禍がそこそこ収束し、再び見応えのある展覧会や興味深い企画が増えてきています。我々もこの機を逃さず美術館の催す諸活動を効果的にご紹介し、美術愛好家の裾野をこれまで以上に広げるべく努力していきたいです。(T・T)